

OB 訪問レポート～資生堂鎌倉工場～

学生役員 渡邊 弘

資生堂訪問団（敬称略）

- ・江藤 碧／小林研究室
- ・加藤竜二／横山泰研究室
- ・栗村嘉彦／横山泰研究室
- ・横川絢佳／横山幸男研究室
- ・渡邊 弘／湊研究室（学生役員）

去る 2011 年 7 月 20 日、株式会社資生堂の常勤監査役である米山俊夫先輩（応用化学科：昭和 50 年卒）のご厚意により、資生堂鎌倉工場の見学と米山先輩へのインタビューの企画が実現しました。

鎌倉工場では、技術部長の増田さんから簡単な説明をいただき、そこで初めて「見学の様子がテレビで取り上げられるほどの人気で、2 カ月先まで予約でいっぱい」という人気企画であることを知りました。とても驚くとともに、貴重な時間を割いて私たち訪問団の見学を実現させて下さった米山先輩に、ただただ頭が下がるばかりでした。

さて、見学の内容ですが、まず、資生堂の歴史や化粧品に対する姿勢などをまとめた DVD を鑑賞し、鎌倉工場に関する基礎知識を説明していただきました。また、ほこりや汚れといったものに非常に気を配っていて、専用の上着や靴カバーなどを着用し、手指の消毒をしたのち、エアーシャワーなどで徹底的にほこりなどを落として見学コースへ入場することとなりました。何トンもの化粧水や乳液を製造できる釜や、それらを注入する大型機械などもありましたが、なんと、大部分の工程で人の目によるチェックが入り、手作業での製造・箱詰めが行われていました。もっとオートメーション化が進んでいるものだと思っていたのですが、多品種少量生産ということで、鎌倉工場では数千種類の商品をかかわるがわる製造するために、手作業の方がずっと効率が良いという話でした。また、化粧品の効果の違いや正しい使い方の講座など、理科実験のような形で体験できたので、一般の参加者の方々と一緒に思わず聞き入ってしまいました。

学ぶところの多かった見学の後、米山先輩へのインタビューを行いました。工場に到着した当初は何から質問すればいいのか戸惑っていましたが、昼食

の途中から見学内容や今までの米山先輩の仕事などについての質問が始まり、みんな段々と聞きたいことが出てきたようでした。

米山先輩へのインタビュー

- ・製品開発や実験における五感の大切さについて
自分の研究した物がどういったものか、お客様の感覚と同じ言葉で説明できることが必要ですから、色も香りも使い心地も、きちんと自分で分かるということが大事です。資生堂では、男性も女性も新人研修でフルメイキャップを行い、そういった感覚を磨いています。研究所で初めてやった商品改良の仕事も、違う原料から同じ効果と使い心地を引き出すのに、何度も実際に試して完成しました。
- ・先輩の学生時代について
応用化学科で、物理化学の分野の乳化剤や界面に関する研究をしていました。修士論文のテーマも界面活性剤の混ぜ方に関する研究で、企業との共同研究でも口紅や香水やシャンプーなどの色々な商品の立ち上げに参加しました。その意味ではドンピシャの業界に入れたと思います。とても幸運でした。

・どんな人材を求めているのか

私も製品開発を 10 年やってから、20 年間は経営戦略の仕事をやってきました。なので、与えられた仕事に果敢に挑戦する人や、違った領域の仕事を楽しめる人というのは常に求めています。あと、英語ができると思いいます。資生堂の海外売り上げは現在 40% ですから、技術を持った理系で海外に興味のある人というのは重宝します。最近の若い社員には、海外の研究所に行きたいという人が少ないので、ぜひ英語を覚えて、積極的に外に出て欲しい

です。また、企業というのは先端の技術も研究していますが、それ以上に古い技術も大切にしています。なので、先端分野だけをやってきたという人はあまり採用しないかもしれません。

・理系学生の需要について

常に理系学生は求めています。ただ、昨今の電力不足や原発問題の動向によっては海外移転も検討しなければなりません。なので、ニーズは海外で働ける技術者へとシフトするかもしれません。消費地に近いところで生産するのが基本ですから、成長著しい地域にはどんどん進出していくことになるでしょう。しかし、日本の企業が日本でやっつけける限り、きちんと日本でも採用するはずで、実際、人事はブラックボックスなので、なんとも言えません。

・若い社員に思うこと

意欲の高い人や、新しいことに興味を持ってくれる人もいます。しかし、こういう社員にはもっともっと増えて欲しいと思います。今、外国へ留学する学生も減ってきているので、日本全体に言えることですが、少々内向的すぎるのではないかと思います。

・やりがいについて

商品を手にとって、買ってくれる人がいるということに感動しますし、それが喜びでもあります。これは理系独特のものではないかとも思います。皆さんも、きちんとそういったやりがいを持つということが大事だと思います。

・理系の強みとは

論理的で数字に強い人が多いということが強みだと思います。私も経営に携わる中で、マーケティングや会計の勉強が必要になりましたが、理系学生ならこういった知識も十分に後付できると思います。逆に、文系が後から化学や物理をやろうとしても難しいでしょう。あと、会社側は修士の学生を、研究員として働くに当たっての最低限のマネジメント能力を有する人と理解しています。そのマネジメント能力は経営の部署に行っても有用ですし、理系の強みだと思います。エントリーシートではこういった能力は分からないので、理系の修士学生というのは常に需要がありますね。

・資生堂について

企業の構成として女性が7割ということで、育児に対する深い理解がありますね。最近では、出産を理由に辞めるという人はほとんどいません。同時に、大きな異動というのも少ないようです。私も、人生の中で引越しというのをしたことがありませんよ。

・研究所の所長時代について

研究テーマとその成果を管理して、ヒト・モノ・カネをいかに分配するかという、マネジメント能力の求められる仕事でした。経営をしていて、事業を進めていくのとほとんど同じような仕事でしたね。

・学生に求めること

これからどう働いていくのか、自分の生活をどうしていくかということを考えて欲しいです。普段から働く理由というのを考えるということは少ないので、世の中に出てからのことを考えておいた方が良いでしょう。社会に出ると、今までやったことのない仕事の方が多いので、そういった意味で、何のために働くかというのを考えておいて欲しいです。

・仕事のできる人とできない人について

要求されたことだけをやるのは並みの人で、仕事のできる人というのは何が求められているのか理解して動ける人だと思います。そもそも何をやるべきか、何をすれば貢献できるか考えて、一歩先の努力をできるということは大切です。また、色々な視点を持っている事や、果敢にチャンスを掴みにいって、それを成し遂げられる運を持っているということも仕事のできる人の条件だと思います。

・最後に一言

横国生には、もっと外に目を向けて積極的になっていってほしいです。そして、理系学生として、技術力を高めていける人材になって欲しいです。

インタビューを終えてみれば、予定していた時間を大幅に過ぎてしまうほど内容の濃い会談となりました。参加した学生も、様々な感想を持ったようです。

○米山さんのお話が、これから働くということを考える上でとても参考になりました。

○日頃店頭で販売されている商品の製造工程を生で見ることができて、より製造業の魅力を知ることが

できるとともに、実際に自分が働くビジョンを想像できて、貴重な時間を過ごせました。そして、米山監査役の様々な経験から得た重みのある考えを聞くことができたことが、何よりも今後の自分のキャリアを形成していく上での貴重な経験となりました。

○化粧品がどのように考えられ、作られているかを知ることができ、おもしろかったです。資生堂の方のお話を聞き、企業の事や仕事について学ぶことができたので、今後の学生生活や就職活動に役立てていきたいです。

○直接OBの方とお会いしてお話しさせていただく

ことで、今まで意識したことがなかった会社、企業というものを考えることができ、4年生になり、研究室に配属され、研究を重ねていく中でどのような意識を持ってこれからを過ごしていこうか、また、就職に向けて、どのようなことを考えていってほしいかなど、これから研究に本格的に取り組み就職するにあたっての心構えを知ることができた貴重な体験でした。

改めまして、米山先輩、ありがとうございました。

